

内水ハザードマップの策定について

1 内水ハザードマップとは

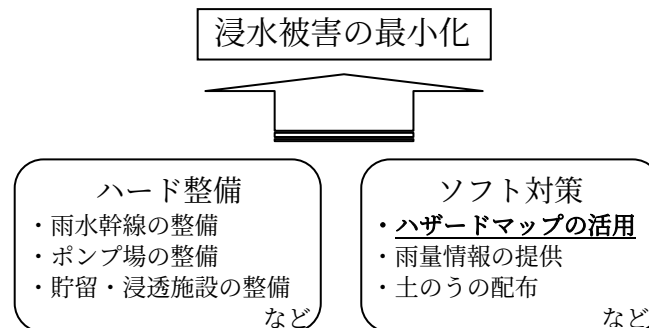
内水ハザードマップは、大雨時に想定される下水道や水路に起因した浸水区域や水深などの様々な情報をまとめたマップです。

河川からの氾濫による浸水区域などを示した洪水ハザードマップが既に公表されていますので、併せて浸水ハザードマップとして公表します。

2 策定の目的

近年、局地的集中豪雨が増加し、各都市で大きな被害をもたらしています。横浜市でも下水道の整備水準を超える雨が増加しており、浸水被害のリスクが高まっています。

これまで進めてきた雨水幹線等のハード整備とあわせ、ソフト対策の一つとして内水ハザードマップを策定、公表することで、市民の水害に対する防災意識を高め、自助や共助を促し、被害の最小化を図ります。



3 策定の経緯

	項目	H23	H24	H25	H26
1 年目	基礎調査	南部方面	北部方面		
2 年目	シミュレーション実施		南部方面	北部方面	
3 年目	公表に向けた調整			南部方面	北部方面

【参考】

南部方面：中、南、港南、磯子、金沢、戸塚、栄、泉、瀬谷

北部方面：鶴見、神奈川、西、保土ヶ谷、旭、港北、緑、青葉、都筑

4 マップの構成と公表方法

(1) 浸水（洪水・内水）ハザードマップの構成

- ①既存の洪水ハザードマップと内水ハザードマップを並列に記載
- ②浸水した際に危険な道路の地下通路を記載
- ③洪水と内水の違いや雨水ますの清掃など日頃からの備えについて記載

(2) マップの作成・公表方法

- ①マップは行政区ごとに作成し、マップとインターネットで公表する。

5 策定・公表へ向けた今後のスケジュール

- ・素案確定（9月中）
- ・市民意見募集（10月1日～10月31日）
- ・策定・公表（南部方面：平成25年度末、北部方面：平成26年度末）

調整中
取扱い注意

横浜市
浸水(内水・洪水)ハザードマップ
(戸塚区)

保存版

いざという時に確認できるように他の防災マップと合わせて保管しましょう

●浸水ハザードマップの使い方●

スタート

「1 日頃からの備えと大雨時の注意点」
をご覧ください

浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが
重要です。
ハザードマップで想定した以上の大雨が降る可能性もあります。

あなたの住まいや職場で
浸水が発生するおそれがありますか？

この裏面の「①内水ハザードマップ」と「②洪水ハザードマップ」の
浸水想定区域を確認しましょう。

「①内水ハザードマップ」の
浸水想定区域となっている方

「②洪水ハザードマップ」の
浸水想定区域となっている方

「②内水ハザードマップの活用」
をご覧ください。

「③洪水ハザードマップの活用」
をご覧ください。

※両方のマップで浸水想定区域となっている方は、
両方をご覧ください

お問い合わせ先：所管

内水ハザードマップ
横浜市 環境創造局 下水道事業調整課
TEL：045-671-2840

洪水ハザードマップ
横浜市 総務局 危機管理室情報技術課
TEL：045-671-3454

横浜市

平成26年4月版

横浜市環境創造局キャラクター
「だいちゃん」

2 内水ハザードマップの活用

～地図面の「①内水ハザードマップ」で浸水想定区域となっている方へ～

○内水ハザードマップってなんだろう？○

下水道や水路などからの浸水（内水はん監）とは？

街に降った雨は、下水道管や水路、道路側溝などを流れて河川へ排水され
ます。大雨で下水道管や水路がいっぱいになってしまつと河川に排水で
きずマンホールや雨水ます等から溢れて浸水を起こします。これが内水は
ん監です。

マンホールから雨水があふれ、
マンホールのふたがはすれる
恐れがあります。

側溝や水路、雨水ますから
雨水があふれます

雨どい

雨水ます

下水道管さよ

道路側溝

河川

下水道

内水ハザードマップとは？

内水ハザードマップは横浜市で過去に記録した1時間に76.5mmの雨が市全
域に降った場合の下水道や水路河川等から浸水が想定される区域を示したも
です。

横浜市では、1時間当たりの雨量が50mm～60mmの整備水準で下水道の整
備を進めていますが、近年整備水準を越えるような雨が多発しています。

内水ハザードマップは、下水道の整備を越える大雨の際の下水道や水路など
から浸水に対して、日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したも
です。

想定条件 ● 1時間に最大76.5mmの降雨
(約30年に1回降ると想定される降雨)
※平成16年10月9日(台風22号)に横浜市消防局野庭出張所で観測された実績降雨

○下水道や水路等からの浸水に備えよう○

浸水被害を防止、軽減させるために日頃から備えましょう

◎家にあるもので浸水を防ぎましょう。
土のうやプランター、家庭にあるゴミ収集袋などを
利用した水のうなどを使いましょう。

◎意外なところからの浸水に注意しましょう。
排水口などから逆流することがあります。水のう
などでふさぎましょう。

◎浸水防止対策は応急処置です。浸水の危険性があると
感じたときは、早めに安全な場所へ移動しましょう。

◎いざという時に安全な場所を確認しておきましょう。
内水はん監は、浸水深さが小さいため、2階以上の安全
な場所を確認しましょう。

◎設計者・建築主の皆さんへ
◎過去に浸水被害があった周辺の土地では、できるだけ半地下住宅・地下駐車場・機械式駐車
場の設置はしないようにして下さい。設置する場合は、排水ポンプや止水板、土のうを用意
しましょう。

◎水のうで風呂場の排水口からの逆流を防ぎます。

◎土のうを作り、長めの板
などと組合わせて利用
し、浸水を防ぎます。

◎プランターをならべ、レ
ジャーシートで包み、浸
水を防ぎます。

◎ゴミ収集袋(45ℓ)を
二重にして、中に
半くらいの水を入
れる。

◎水のうで風呂場の排水口からの逆流を防ぎます。

◎地下駐車場や機械式駐車場は、水が一気に流れ込んでくる可能性があります。降雨時は車などの
取扱いに注意してください。

◎地下道路(アンダーパス)は、大雨時に冠水する危険性があります。
大雨時は、通行は避けましょう。

○大雨が降ってきたら○

情報を確認し、周囲の状況判断して適切な行動を！

◎降雨情報に注意しましょう。
右図の雨の強さと浸水想定では、雨が強くなるほど浸水が発生しやすくなります。時間30mmを超
えたあたりから浸水が発生し始めます。

◎路面の状況に注意しましょう。
道路が冠水し始めたら、注意が必要です。

◎危険を感じたら適切に行動しましょう。
強い降雨が続いたり、道路の冠水が急に大きくなった場合
は危険です。2階以上へ移動する等、安全な場所へ移動してください。

◎地下街や半地下住宅は浸水する危険性が高いので、雨が強くなってきたら早めに安全な場所へ移
動してください。

◎地下駐車場や機械式駐車場は、水が一気に流れ込んでくる可能性があります。降雨時は車などの
取扱いに注意してください。

◎半地下住宅は危険です 浸水すると電気が消えます 地下駐車場や機械式駐車場は、地上が冠水すると
一気に水が流れ込んできます

◎地下道路(アンダーパス)は、大雨時に冠水する危険性があります。
大雨時は、通行は避けましょう。

○雨の強さ(時間降雨強度)と浸水想定○

やい強い雨
(1時間に10～20mmの場合)

●雨の様子
・ザーザーと降る
・跳ね返りで足元が
ぬれる

●屋外の様子
・一面に水たまりが
できる

●浸水想定区域
1時間雨量が10ミリの場合

強い雨
(1時間に20～30mmの場合)

●雨の様子
・土砂降り
・傘を差していても
ぬれる

●屋外の様子
・一面に水たまりが
できる
・側溝や下水道が溢
れ始める

●浸水想定区域
1時間雨量が30ミリの場合

激しい雨
(1時間に30～40mmの場合)

●雨の様子
・バケツをひっくり
返したように降る
・傘を差していても
ぬれる

●屋外の様子
・道路が川のよう
になる
・下水道管から雨水
が噴出する

●浸水想定区域
1時間雨量が40ミリの場合

非常に激しい雨
(1時間に40～50mmの場合)

●雨の様子
・ゴーゴーと激しく
降る
・傘を立てても倒
れ立くなる

●屋外の様子
・水しぶきであたり
一面、白く濁る境
界がなくなる
・マンホールから水
が噴出する

●浸水想定区域
1時間雨量が50ミリの場合

1 日頃の備えと大雨時の注意点

○日頃からの備え○

浸水被害を防止、軽減させるために日頃から備えましょう

◎側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。

◎吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると浸水の原因にな
り、裏面のマップで浸水が想定されていない区域でも浸
水することがあります。

◎お風呂等の大量の水を排水するのを控えましょう
下水(合流式)から溢れる浸水が多いので、大雨のときは大量の水を
下水に排水するのは控えましょう。

○大雨が降ってきたら○

大雨や洪水によって災
害の起こるおそれのある
状況

大雨や洪水によって重
大な災害の起こるおそ
れのある状況

避難準備情報

人的被害が発生する可
能性が高まった段階

避難勧告

人的被害が発生する可
能性が明らかに高まった
段階

避難指示

人的被害が発生する可
能性が非常に高まった段階

特別警報

数十年に一度しかないよ
うな非常に危険な状況

○大雨が降ってきたら○

浸水の発生の流れと皆さんのとるべき行動

内水の浸水発生

洪水の浸水発生

●行政の対応●

雨量監視体制を強化

災害対策本部を設置

対象地区に
避難準備情報を発令

○広報車などにより避難準備、
自主避難を呼びかけます。
○避難所を開発します

△河川の急な増水時には、避難
準備情報を終ずに避難勧告な
どを発令することがあります。

対象地区に避難勧告を発令

○広報車などにより避難を呼び
かけます。

対象地区に避難指示を発令

○広報車などにより避難を指示
します。
○災害応急活動を実施します

●皆さんの行動●

～内水はん監の危険～

○テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報
に注意しましょう
○横浜市HPなどで河川の状況を確認しまし
ょう
○外の様子に注意しましょう
・道路の側溝やマンホールから大量の水が
溢れる

～洪水はん監の危険～

○避難行動に時間を要する方は、避難所等へ
の避難行動を開始して下さい
○避難を支援する方も支援行動を開始して下
さい。
○通常の避難が出来る方は避難準備を開始し
て下さい。

○避難所などへの避難行動を開始して下さい。
○浸水が始まっている場合は無理に避難所へ
は移動せず、安全な近くの高いところなど
に一時避難するなどの行動をとって下さい。

○避難勧告発令後、避難中の方は、確実な
避難行動を直ちに完了して下さい。
○避難していない方は、直ちに避難行動に移
るか、浸水が始まっている場合は、無理に
移動せず、安全な近くの高いところなど
に一時避難するなどの行動をとって下さい。

○周囲の状況や市町村から発表される避難指
示、避難勧告などの情報に留意し、ただち
に命を守るための行動をとってください。

○河川はん監による浸水に備えよう○

自宅付近で安全な避難所を確認しましょう

◎自宅付近がどれくらいの高さになるのか確認しましょう。
◎自宅から避難所までの複数の道順や方向を洪水ハザードマップに書き込み
ましょう。鉄道や高速道路を横断できる歩道橋(青い)や陸橋(緑)を確認
しましょう。
◎河川から離れている場所でも下水道などから浸水することがあります。
「内水ハザードマップ」で自宅付近の浸水想定区域を確認しましょう。
○みんなで確認しよう！

避難時の持ち出し品を確認しましょう

◎持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしましょう。
◎持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。
(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品など)

○大雨が降ってきたら○

無理せず安全な避難を心がけましょう

◎避難しようと思った時や避難途中で自宅近くの道路が浸水していた
ら、無理に避難所へは移動せず、浸水していない近くの高いところ
へ一時的に避難しましょう。

安全な経路で避難しましょう

◎河川沿いや急傾斜地(がけ)沿いの道及び地下道路(アン
ダーパス)は避けましょう。
◎大雨により蓋が外れたマンホールや側溝に足をとられる危険性があ
りますのでご注意ください。

避難情報の伝達

◎広報車や消防車による巡回広報や防災情報メール、市ホームページから伝達されます。

●車庫による巡回広報

●防災メール

●インターネット

◎戸塚区ホームページ
避難勧告などが発令された場合、戸塚区ホームページに掲載されます。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/somu/bousai/>

◎横浜市防災情報の電子メール配信サービス
メール配信サービスの登録
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/>
※電子メールの情報は無料ですが、通信料は受信者の負担となります。

3 洪水ハザードマップの活用

～地図面の「②洪水ハザードマップ(参考図)」で浸水想定区域となっている方へ～

○洪水ハザードマップってなんだろう？○

河川はん監による浸水(洪水はん監)とは？

大雨が降り続くとか川の水位が上昇し、堤防を超え水が溢れだしたり、堤防
が決壊して河川の水が街に流れ出します。これが河川(洪水)はん監です。

堤防の決壊箇所から河川の水が流れ込んできます

堤防を超えて河川の水が流れ込んできます

河川

下水道

洪水ハザードマップとは？(参考図)

洪水ハザードマップは洪水はん監により河川から水が流れ出した際に
浸水が想定される区域を示したもので、水防法に基づき平成19年に公
表しています。
河川が氾濫した際に、浸水が想定される区域の皆さんが、速やかに避
難していただくためのものです。

想定条件 ● 24時間で約290ミリの降雨
(100年に1回降ると想定される降雨)
※横浜気象台では、昭和33年9月26日に24時間で287mmの降雨を観測したことがあります。

○河川はん監による浸水に備えよう○

自宅付近で安全な避難所を確認しましょう

◎自宅付近がどれくらいの高さになるのか確認しましょう。
◎自宅から避難所までの複数の道順や方向を洪水ハザードマップに書き込み
ましょう。鉄道や高速道路を横断できる歩道橋(青い)や陸橋(緑)を確認
しましょう。
◎河川から離れている場所でも下水道などから浸水することがあります。
「内水ハザードマップ」で自宅付近の浸水想定区域を確認しましょう。
○みんなで確認しよう！

避難時の持ち出し品を確認しましょう

◎持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしましょう。
◎持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。
(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品など)

○大雨が降ってきたら○

無理せず安全な避難を心がけましょう

◎避難しようと思った時や避難途中で自宅近くの道路が浸水していた
ら、無理に避難所へは移動せず、浸水していない近くの高いところ
へ一時的に避難しましょう。

安全な経路で避難しましょう

◎河川沿いや急傾斜地(がけ)沿いの道及び地下道路(アン
ダーパス)は避けましょう。
◎大雨により蓋が外れたマンホールや側溝に足をとられる危険性があ
りますのでご注意ください。

避難情報の伝達

◎広報車や消防車による巡回広報や防災情報メール、市ホームページから伝達されます。

●車庫による巡回広報

●防災メール

●インターネット

◎戸塚区ホームページ
避難勧告などが発令された場合、戸塚区ホームページに掲載されます。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/somu/bousai/>

◎横浜市防災情報の電子メール配信サービス
メール配信サービスの登録
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/>
※電子メールの情報は無料ですが、通信料は受信者の負担となります。

4 浸水ハザードマップの活用

～地図面の「④浸水ハザードマップ(参考図)」で浸水想定区域となっている方へ～

○浸水ハザードマップってなんだろう？○

浸水被害を防止、軽減させるために日頃から備えましょう

◎側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。

◎吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると浸水の原因にな
り、裏面のマップで浸水が想定されていない区域でも浸
水することがあります。

◎お風呂等の大量の水を排水するのを控えましょう
下水(合流式)から溢れる浸水が多いので、大雨のときは大量の水を
下水に排水するのは控えましょう。

○大雨が降ってきたら○

大雨や洪水によって災
害の起こるおそれのある
状況

大雨や洪水によって重
大な災害の起こるおそ
れのある状況

避難準備情報

人的被害が発生する可
能性が高まった段階

避難勧告

人的被害が発生する可
能性が明らかに高まった
段階

避難指示

人的被害が発生する可
能性が非常に高まった段階

特別警報

数十年に一度しかないよ
うな非常に危険な状況

○大雨が降ってきたら○

浸水の発生の流れと皆さんのとるべき行動

内水の浸水発生

洪水の浸水発生

●行政の対応●

雨量監視体制を強化

災害対策本部を設置

対象地区に
避難準備情報を発令

○広報車などにより避難準備、
自主避難を呼びかけます。
○避難所を開発します

△河川の急な増水時には、避難
準備情報を終ずに避難勧告な
どを発令することがあります。

対象地区に避難勧告を発令

○広報車などにより避難を呼び
かけます。

対象地区に避難指示を発令

○広報車などにより避難を指示
します。
○災害応急活動を実施します

●皆さんの行動●

～内水はん監の危険～

○テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報
に注意しましょう
○横浜市HPなどで河川の状況を確認しまし
ょう
○外の様子に注意しましょう
・道路の側溝やマンホールから大量の水が
溢れる

～洪水はん監の危険～

○避難行動に時間を要する方は、避難所等へ
の避難行動を開始して下さい
○避難を支援する方も支援行動を開始して下
さい。
○通常の避難が出来る方は避難準備を開始し
て下さい。

○避難所などへの避難行動を開始して下さい。
○浸水が始まっている場合は無理に避難所へ
は移動せず、安全な近くの高いところなど
に一時避難するなどの行動をとって下さい。

○避難勧告発令後、避難中の方は、確実な
避難行動を直ちに完了して下さい。
○避難していない方は、直ちに避難行動に移
るか、浸水が始まっている場合は、無理に
移動せず、安全な近くの高いところなど
に一時避難するなどの行動をとって下さい。

○周囲の状況や市町村から発表される避難指
示、避難勧告などの情報に留意し、ただち
に命を守るための行動をとってください。

○河川はん監による浸水に備えよう○

自宅付近で安全な避難所を確認しましょう

◎自宅付近がどれくらいの高さになるのか確認しましょう。
◎自宅から避難所までの複数の道順や方向を洪水ハザードマップに書き込み
ましょう。鉄道や高速道路を横断できる歩道橋(青い)や陸橋(緑)を確認
しましょう。
◎河川から離れている場所でも下水道などから浸水することがあります。
「内水ハザードマップ」で自宅付近の浸水想定区域を確認しましょう。
○みんなで確認しよう！

避難時の持ち出し品を確認しましょう

◎持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしましょう。
◎持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。
(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品など)

○大雨が降ってきたら○

無理せず安全な避難を心がけましょう

◎避難しようと思った時や避難途中で自宅近くの道路が浸水していた
ら、無理に避難所へは移動せず、浸水していない近くの高いところ
へ一時的に避難しましょう。

安全な経路で避難しましょう

◎河川沿いや急傾斜地(がけ)沿いの道及び地下道路(アン
ダーパス)は避けましょう。
◎大雨により蓋が外れたマンホールや側溝に足をとられる危険性があ
りますのでご注意ください。

避難情報の伝達

◎広報車や消防車による巡回広報や防災情報メール、市ホームページから伝達されます。

●車庫による巡回広報

●防災メール

●インターネット

◎戸塚区ホームページ
避難勧告などが発令された場合、戸塚区ホームページに掲載されます。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/totsuka/somu/bousai/>

◎横浜市防災情報の電子メール配信サービス
メール配信サービスの登録
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/>
※電子メールの情報は無料ですが、通信料は受信者の負担となります。

資料名		出典データ
事業所	横浜市建築局 都市計画基本データ	
河川	横浜市都市計画局河川管理課 平成25年度第3回 横浜市海況簿 河川部 (平成24年度4月現在)	
浸水想定区域	神奈川県 川崎市水浸水想定区域図 (平成18年8月制定)	
危険箇所箇所 危険区域	横浜市建築局 危険箇所箇所危険区域データ (平成25年8月)	

1 : 14,000

0m 500m 1000m